

2025年大阪・関西万博開催に向けて

特別対談

半年限定、
夢のテーマパークがやってくる！OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025
©Expo 2025川島副区長が
お話を
うかがいました！

ズバリ「万博とは」？

—1970年の大阪万博当時、私は小学校低学年。期間中に複数回、会場を訪れましたが、人生で最大ともいえるインパクトを受けたイベントでした。お二人にとって万博とは？

堺井 私は経済産業省で国際博覧会にはいくつも関わりましたが、2015年ミラノ万博で日本館を出展する際には中心的な立場で携わりました。東日本大震災の後でしたので、ジャパンデーには復興支援への感謝として元気になった姿を見てもらおうと、東北6県の6つの祭りや福島県の4つの祭りが大集合するイベントを企画。祭りごとに本物の演者さん約30名にご協力いただき、ストリートでパレードを行いました。それが地元メディアに大きく取り上げられ、翌日からその祭りを見たいと多くの人が殺到。パレードは一日限りだったため日本館に押し寄せ形となりました。食がテーマのエンターテインメントを見ていただいた後、日本食レストランに誘導するスタイルの展示は、当初3時間待ちだったのが最後には10時間待ちという人気に。非常に嬉しい評価をいただいたのが印象に残っています。

万博は**世界の国々が集まる舞台で、自国の将来をどう作っていくかを発信していく、いわば夢を実現させるための場所**だと思っています。

白井 ひとことで言えば「**半年間限定のテーマパーク**」ですね。たとえばUSJだったら行きたいときにいつでも行けますが、万博は、行きそびれたら半年後には二度と見られなくなってしまうのが最大のポイント。特に初めて経験する方にとっては、人生を変えるかもしれないぐらいワクワクを感じられるイベントだと思いますよ。

1970年大阪万博について

—本題に入る前に、日本ではじめて実施された登録博である、1970年の大阪万博を振り返りたいと思います。

堺井 私は当時5歳ぐらいでしたが、正直、当時の記憶はほとんどないんです。会場へは親に連れられて行ったようですが、当時の写真を見て「へえ、自分も行ったんだ」と思った程度ですね(笑)。

白井 私はその時高校生。テーマが「人類の調和と進歩」ということで、ものすごくワクワクするイベントでした。「動く歩道」や「電気自動車」「携帯電話」など、**半世紀以上たった現在では実用化されている、当時の最先端技術に初めて触れた**のですが、とにかく見るものすべてが新しく、興奮しっぱなしでした。ちなみにケンタッキーフライドチキンが、大阪万博のアメリカ館(アメリカンパーク)に出展という形で日本に初上陸したんです。その味に感動した知人から、当時の箱をいただき保存しています。



白井さんのコレクションより「日本初上陸のKFC外箱」

また当時、入場券の販売チラシに「万国博で世界旅行」のキャッチフレーズがあったのですが…。海外に行くことがまだまだ一般的ではなく、国内で外国人に会うことも珍しかった時代、パビリオンに行けば参加76か国の人に会えるというので、「世界への窓口」という印象を受けましたね。

とにかく外国人が珍しいので、海外のパビリオンでは、コンパニオンの方にサインを書いてもらうんです。それだけならまだしも、海外から来られた観光客の方にまでサインをねだっていました。…今となっては考えられないことですが(笑)。

160か国を一度に体感するチャンス！

白井 今はずいぶん海外も身近になりましたが…。今回だと参加国は160を超えるわけですね？ それだけの国を訪れられる人なんて、一生をかけたとしてもほぼいけませんよ。そう考えると、**万博に行くだけでそれだけ多くの国の人に会うチャンスがある**、というのはすごいことだと思いますね。

大阪・関西万博の見どころ

—ここからは2025年大阪・関西万博についてお聞きます。建築物では「リング」がよく知られていますし、70年万博を知る者からすると、当時話題になった「人間洗濯機」がリニューアルされて登場するという噂や、「月の石」が再展示されるかも？といった情報に興味を持ったりしますが…。何かこっそり教えていただける情報や、特にアピールしておきたい情報などあれば教えてくださいませんか？



写真提供:大阪府「月の石」

ください。さらにその離発着ゾーンの近くに「未来の都市」「未来のヘルスケア」「未来の食」などを体感できるパビリオン等が並ぶ予定です。

堺井 今回の万博のテーマである、「いのち輝く未来社会のデザイン」を世界に発信していく象徴的な存在として、「**シグネチャーパビリオン**」と名づけた、**リング中心付近に集う8つのパビリオンは最大の見どころ**です。

いのちを「知る」「つむぐ」「響き合わせる」…など、いのちに関わる8つのテーマについて、映画監督の河瀬直美さんやメディアアーティストの落合陽一さんなど、8分野で最先端を走る「テーマ事業プロデューサー」が指揮をとり、各コンセプトに共感する企業とともに展示内容を作り上げます。また今回、「**未来社会の実験場**」をテーマに、**未来社会を体験できるゾーンを設置**。特に「空飛ぶクルマ」を楽しみにし